

日本語の個性 (7)

言文不一致

外山謙三

は

10

15

20

外国人に日本語がつかえるようにはならぬ  
 い、と日本人は思い込んでいた。  
 難しすぎる  
 というのである。母国語に対するいわれなき  
 コプロレウクスだっただと思ひ及ぶ人  
 も  
 少なかった。

戦後、アメリカ人をばいめ日本語の学業する  
 外人リが~~あ~~えたことがいふほど日本人の自  
 信をつけたか知ぬまい。日本人~~の~~の日本  
 語をしやむる、といつておどろいた。  
 そういふのは、  
 使

使

の外国人が、等は、

文章はほとんど書ける。いはば目をこらした  
あるいは気が付かない。もちろん、ひうして書  
けないが、考えるものもなかつた。  
戦後二十多年の頃か、日本語の研究者  
が研究者がふえた。それに加えて、  
で、国際シヤパノロジストの会議が京都で開  
かれ、<sup>たことか</sup>ある。南米ヤルセンチンか  
ら一人の研究者が参加したか、この人は独学  
者で、たけで日本語をマスターするといふ特  
異な才能の持ち主。日本語を、  
を、もつて、

いふた論文

海外の

と発表することになった。会場ではおの人の発表を聞いておのろく。すいて、です、ますと体なやである。彼は、  
「ひある」彼の原稿をつくってきて、そのま  
き張むつもりだった。日本強は英文一致とい  
うことになった。いろいろおのろく、本に書いてあ  
る文章はそのまま口頭でも話せるものと思  
込んひいたのひある。彼はあわてて、原稿を  
書きかえろくして百うあるたつたというエ  
ピソードが一部の人たちをひいた。英文

興味

一致というが、本意にどうなつていないのに、  
いつか加つたのひある。

もともと日本~~報~~は、若くのと試すのと  
別々の~~架~~道をし~~の~~こと~~て~~した。文章や漢文の

流れをひいた文法、試すことには和洋中心の

口語ひある。言文二途とも云われる。そのを

不自然と~~考~~考へなかつた。古~~く~~から漢文を

ん人たちはもつた。目的~~の~~こと、~~は~~字~~ひ~~、漢文

を~~綴~~り、漢詩を作ることは出またが、今試と

いうことは~~考~~考へない。必要になつたら等試す

まいったん

日本書紀

5

10

15

20

るしかなない、それをおかしいとも思ふなかつた。たがたかろ言と文が別々であるのは當然である。中国は言のままもひい言文乖離た。

明治、開国してみると、西政の言文が言文一致であるのに、~~おかし~~おかしなところがある。た、外国語では書くところを、誤り、誤り、誤りに書かれるところがある。明治日西人の書籍で、文法と口語の差が大きいゆえに、おかしい。たが、日本語には、その差が小さい、というところのことであるが、たがたしい、外国語では、

5

な

ことの中からわけがない。言文一致と(た)割り  
 却った。日本もそれに倣わなくてははいけない  
 というので明治二十二年ころから言文一致運動  
 が盛まる。ことばの伝統はあつめて(根)強いと  
 のおから、山本箕の試みくらいでは(変)わるま  
 のひびない。しかし、一般は、日本語は言文  
 一致になつたと信じてゐるようになった。ことばの  
 知識、関心が(地)ひのびる。その状態は百二十  
 年たつた今もほんのすこししか變つていない  
 ことば(は)ひひひ人得守的である。

は

ぐ

6





の  
ひある。また、文藝が削減しようとし  
ているのは注目すべきで、それが一見、文  
の距離をなくしたようは錯覚させるかも知  
ない、実際は新しい言文二途が起まっ  
ている。

新聞、雑誌は依然として「ひある」保が  
流ひある。むしろゆたか「ひす、ます」  
好まれる。いんう言動着ひも「ひある」  
会談だしないたろうし、「ひす、ます」  
しやべっている人も、文章は「ひある」  
を固める~~と~~とゆかうない。ま  
い文ニ途ひある。

少  
た  
あ  
ま  
り

~~おもしろい~~

おもしろいと言えし致に近いは

中紙である。朝夜、候文の習い向が廢れて、

ひす・ますし一語に変わった。それが書きかへ

いこともなつて平紙に化せば、~~裏~~裏えたと言つてよ

~~い~~

~~裏~~

もうひとつおもしろいのは、言文混交~~文~~と

も云うへき新しい書き方があらぬれようとし

ていることである。てであるし保とてひす、ま

すし保のヤパンボンである。保じめは、~~本~~の

保じめは、~~本~~の

す

あ

本

9

るに体で書いてきて、若後の関係者への謝辞  
のところで空如くお世辞になりまして、あり  
かたにお礼申し上げますと結ぶ。嫌う人が多  
かつたが、なうなるまい。

それどころか、一般の文章で、<sup>い</sup>ひあるいと  
<sup>い</sup>ひす、ますと混濁~~を~~かふえてへる。  
いまは行儀のよゝ男々方とは言われぬが、  
定着すれば、言文一致と云つてよいだろう。

そうするまでは、日本語は言文不一致を認  
けることにはなるまい。おかし